

小海高等学校生活指導係発行

止まった時計と動き続ける時計

6月15日の事故から3週間以上が経過しました。学年によってもまた、個々人によってもその衝撃の大きさや悲しみの深さはまったく異なっており、今日においてさえ、動揺が完全に収束したわけではありません。

しかしながら、私たちは動き続ける時計の中で、どこかでけじめをつけ、前向きに歩み出すことが必要になります。

君たちにとっては、先週木曜日（7月5日）に行われた臨時生徒大会において、全クラスがクラス決議文を読み上げ、最後に生徒会としての決議文を採択したことが、形の上では一定のけじめをつける時となったように思います。生徒会決議文にはこう記されておりました。

（冒頭一部略）さて、この事故を重く見た生徒会では臨時の生徒大会を開き、どうしたらこのような事故が防げるのかを考えました。私たちは決して他人事では済まされないこの事故から、安全に対する今まで以上の注意と命の尊さ、そして日常生活の基本的な在り方を自覚しなければなりません。

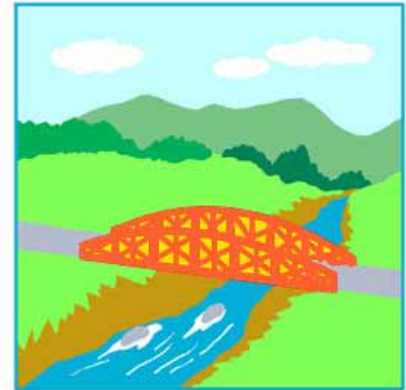
私たちは今後、このような事故を出してはなりません。多くの悲しみを生んでしまったこの事故のことを心に刻み、二度とこのような悲しみを繰り返すことがないように、この生徒大会で左記のことを決議します。

記

- 一、一人ひとりが校則をよく把握し守る。
- 一、学校に無断で免許を取らない、乗らない。
- 一、軽はずみな行動をしない。
- 一、周囲に迷惑をかけない。
- 一、外泊や夜間の外出は行わない。
- 一、道路を歩くときは横に広がったりしない。
- 一、自転車やバイクに乗るときは、自分に都合よく考えず、車や歩行者など相手のことを考えた思いやりある運転をする。
- 一、法定速度を守る。
- 一、信号無視をしない。
- 一、2人乗りは避ける。
- 一、油断しないで自分の命を守る。
- 一、悲しみと悔しさを忘れない。

平成 19 年 7 月 5 日

次へ続く



この決議文に記された内容を全員が心に留め、日々継続してほしいと思います。

特に、3年生は最も身近な存在であっただけに動揺は容易には収まらないのではないかとおもいます。「進路を実現させること」「無事卒業すること」「一日一日の生活をただすこと」などは、一つ一つが君たちの心の中に生き続ける友人への恩返しであり、贈り物となるはずです。元気を出して、前向きに自分の将来を切り拓いてください。



保護者の皆様へ

6月19日（火）に開催されました臨時PTA総会へは、急な通知にもかかわらず、85名という多くの皆様のご参加をいただきありがとうございました。

総会では「外泊・深夜徘徊をさせないこと」「言うことを聞かない場合には、担任に相談する等、学校と連携して具体的な行動を起こすこと」等が最重要課題として確認されました。「外泊・深夜徘徊」につきましては、来週から始まる懇談会の席で配付されます「夏期休業中の諸注意」でも重ねて話題にされるものと思われます。

今回の事故では「指導が本当の意味での指導になっていたのだろうか」「実は形式的な指導に止まっていたのではないだろうか」等、生活指導係といたしましても検証と反省を行い、今後の対応改善に反映させたいと考えております。

このようなことは係だけではとうていできません。PTAの関係諸係の皆様をはじめ、すべてのご家庭のご協力をいただき、お互いに行かせない・来させない、乗らせない等、これまでは子ども達に押し切られていた事柄へも、命を大切にする観点から毅然とした対応ができますようご協力をお願い申し上げます。